

医療安全管理学実習

単位数：1単位(30時間)

責任者：山藤 賢
学年・学期：第2学年・後期

◆一般目標(GIO)

臨床検査技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全と患者接遇について学ぶ。また、鼻腔部、咽頭部、皮膚表在組織病変部、肛門部からの検体採取を安全に行うため適切な知識と技術を修得する。

◆到達目標(SBOs)

1. 検査に必要な患者対応を修得する。
2. 検体採取におけるインシデント・アクシデントを修得する。
3. 感染対策について学び、個人防護具の適切な使用方法を修得する。
4. 各種採血法と注意事項・安全管理について修得する。
5. 鼻腔部・咽頭部から検体採取の手技に伴う注意事項・安全管理について修得する。
6. 表在組織病変部から検体採取の手技に伴う注意事項・安全管理について修得する。
7. 肛門部から検体採取の手技に伴う注意事項・安全管理について修得する。
8. 喀痰吸引の手技に伴う注意事項・安全管理について修得する。
9. 消化管内視鏡検査の手技に伴う注意事項・安全管理について修得する。
10. 味覚検査・嗅覚検査について修得する。

◆学習方法

講義・実習講義を行う。検体採取モデルを使用し、検体採取トレーニングを行う。

◆評価方法

授業態度・定期試験にて総合的に評価する。

◆教科書

新版臨床検査学講座 『医療安全管理学』 諏訪部 章 他著 医歯薬出版(株)

◆参考書

JAMT 技術教本シリーズ 検体採取者のためのハンドブック
日本臨床衛生検査技師会 監修 じほう

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

回数	項目	講義内容	担当
1	患者対応	患者接遇・検査に関する説明	山藤
2		インシデント・アクシデントに対する対応	
3	救急措置	医療事故の際の一次救命措置	〃
4		医療事故の際のAED使用方法	
5	感染対策	標準予防策・手指衛生・感染対策・合併症	〃
6		個人防護具の選択と使用方法	
7	検体採取①	採血に伴う静脈路確保	〃
8		静脈路への成分採血装置の接続並びに操作	
9	検体採取①	鼻腔部からの検体採取	〃
10		咽頭部からの検体採取	
11	検体採取②	表在組織病変部からの検体採取	〃
12		肛門部からの検体採取	
13	検体採取③	経口・経鼻又は気管カニューレ内部からの喀痰吸引	〃
14		消化管内視鏡検査における検体採取	
15	各種検査	味覚検査に必要な知識・技術	〃
16		嗅覚検査に必要な知識・技術	